

イチゴ「兵庫 I-3 号 (愛称:あまクイーン)」の草勢維持のための電照方法

「あまクイーン」は、良食味で極早生性の特長を持つが、冬季の草勢が低下しやすい。草勢の低下を防止し、安定した収穫を得るためには、時間帯を段階的に延長した電照が必要である。

内 容

「あまクイーン」は冬季の草勢が低下しやすく、暖房や電照などの草勢維持技術を必要とする。極早生のため着果負担による草勢低下も早く、一般的な品種より早くからの電照が効果的と推定されるが、一方、処理が過剰になると、第1腋果房～第2腋果房の開花間隔拡大などのリスクも発生する。そこで、電照時間を段階的に延長する方法の妥当性を検討した。

土耕ハウスで電照を10月下旬に開始し、①区では最初は21時までとし、12月下旬から24時まで延長した。②区では最初から24時まで行い（表）、電照以外同一管理で比較した。その結果、最初か

ら長時間電照を行う②区で第2腋花房の開花が著しく遅延した（図1）。草丈など、植物体の矮化は観察されなかったことから（データ省略）、栄養生長に傾いたための花芽分化遅延と考えられる。また、収量は第2腋花房が収穫期に入る3月後半から減少した（図2）。①区でも類似の傾向がみられたが、程度は小さかった。このように、10月下旬からの電照では、開始時期から長時間処理すると減収リスクを伴うため、電照時間帯の拡大を段階的に行う必要がある。

今後の方針

他の技術を含め草勢維持技術を追跡し、新たな情報があれば随時提供するとともに、マニュアル精度の向上を図る。

山本 晃一（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2423）

表 電照の設定

	①区	②区	
電照時間帯 (～12/23)	17-21時	17-24時	左記時間帯に、 毎正時より15分 間欠電照 [※]
電照時間帯 (12/24～)	17-24時 (以後は慣行法通り増減、 全て同一)		

※15分間欠電照：電照時間帯に、1時間当たり15分間の点灯と45分間の消灯を繰り返す方法。

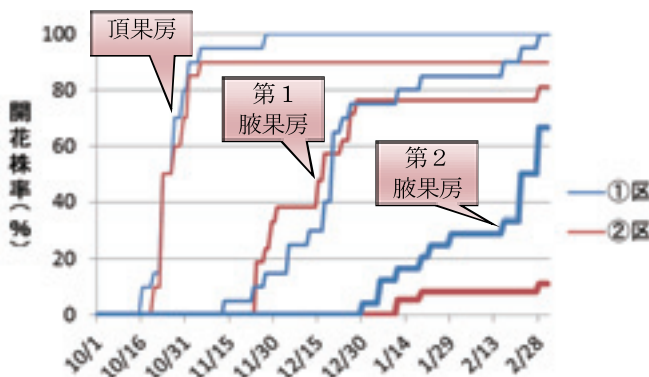


図1 開花株率の推移

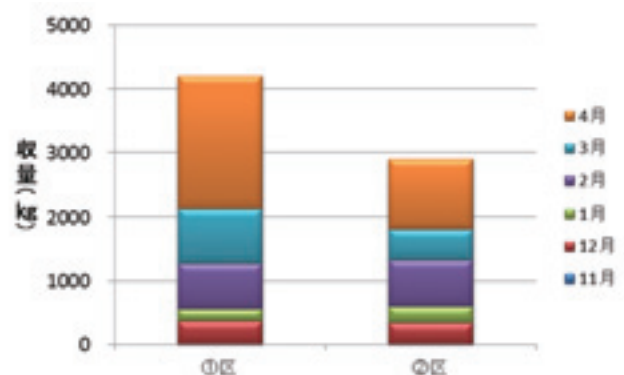


図2 月別収量の比較 (10a 当たり)